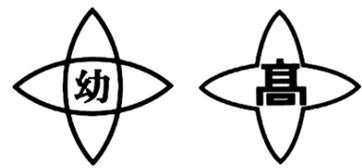


建学の精神

創立者であるカロール・サマフィールド・ロングは、学生たちに「クリスチャン・ジェントルメンとなれ」と語り続けました。彼は、メソジスト派の流れに沿って、ジョン・ウエスレーを指導者とするオックスフォード大学の学生たちが強調した「聖霊による聖化」を信じ、日本の青年たちが、高潔な品性を持ち信仰あるジェントルメンとなることを祈りました。

〈鎮西学院〉の命名者である第10代院長 笹森卯一郎（日本人として初代）の生活標語は、「死に至るまで忠信であれ」でした。この精神は、教え子である第15代院長 川崎升に受け継がれ、具現化されました。川崎升院長は、「敬天愛人」の標語を掲げ、キリスト教主義人格教育に情熱を傾けました。

「神を敬う心は、人を敬う心を厚くするものである。いつも自分を高める努力をし、それを他者のために役立てていくような生き方のできる人間をつくることである」



鎮西学院 校章・マーク
東山手・竹の久保時代には、匂いが果てない象徴として桜の花がモチーフとされましたが、新制高等学校発足に伴い十字を標した校章が用いられ、変遷ののちも継承されています。

学校法人 鎮西学院

〒854-0081 長崎県諫早市柴田町1057

TEL : 0957-26-8200 FAX : 0957-26-8009



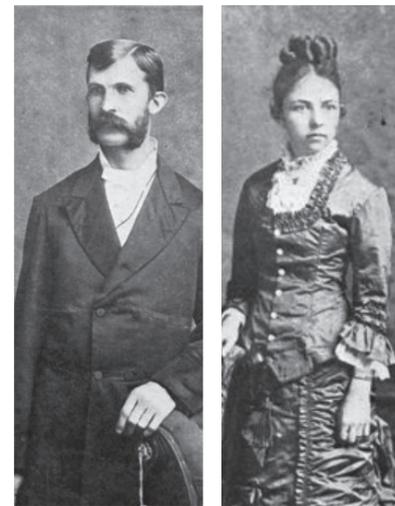
創立

鎮西学院は、北アメリカメソジスト監督教会から派遣された宣教師 カロール・サマフィールド・ロングによって、1881年(明治14)長崎居留地に設立された〈カブリー・セミナリー〉から始まりました。校名は、ロングの母校 テネシー・ウエスレヤン大学元・学長カブリー博士未亡人の名前に因んだものです。1880年(明治13)1月、ロング夫妻の送別祈祷会のときに、銀貨2枚(2ドル)を渡し、「日本の若い人々に教育をする資金に加えてください」と言ったカブリー夫人の恩顧に報いるための命名でした。この銀貨2枚を契機に続々と寄せられた献金を携えて、若きロング宣教師夫妻は1880年(明治13)来日しました。

ロング夫妻は、任地の長崎で宣教活動を開始。長崎では、すでに1年前、同じメソジスト派の婦人宣教師から派遣されたミス・ラッセルとミス・ギールが活水学院を興し、女子教育が開始されていました。それで、ロング夫妻は男子のために学校を創設することにしました。その手始めとして、自宅の一室で英語に興味を持つ数名の希望者を集めて、家塾のような教育を始めました。それが、今の鎮西学院の芽生えです。ロング夫妻は、約一年半にわたる努力の結果、〈カブリー・セミナリー〉を東山手の高台につくりました。1881年(明治14)10月23日の落成式の日が、鎮西学院の創立記念日と定められています。

北アメリカメソジスト監督教会の長崎宣教は、J・C・デビソンによって1873年(明治6)に始められました。長崎ではカトリック宣教師に対する流血の弾圧と迫害追放が長く続いた地で、デビソンはこうした歴史を背負った偏見と闘わなければなりません。日本伝道に49年の歳月を捧げたデビソンは、1876年(明治9)には出島メソジスト教会(現・長崎銀屋町教会)を設立して、活水女学校(現・活水学院)と加伯利英和学校(現・鎮西学院)の設立準備に大きな役割を果たしました。また、当時のメソジスト長崎教区長として、ロングを支援しています。

2度の校舎全焼、原爆による校舎全壊と140人余に及ぶ死者を出すという苦難を乗り越え、今日に至っています。



創立者 Caroll Summerfield Long (1850~1890年)
と夫人のFlora I. Smith
校長在任わずか2年にもかかわらず、
今日まで鎮西学院の校祖として、
皆の心に刻まれています。



創立の背景と歴史

1881年(明治14)ロング夫妻によってつくられたカブリー・セミナリーは、創立早々から学生募集を新聞で行なうという画期的な戦略を打ち出します。まだ、長崎には、新聞で学生募集を行なうという学校はありませんでした。最も古い募集広告は、1882年(明治15)10月から長崎の『西海新聞』に出されたものです。カブリー・セミナリーを「カブリフ」と表現しているところに文明開化の香りがします。

1883年(明治16)10月には、ロングの名前で、「カブリー学校にて英和漢学を教授す。外国教師2名にして授業は午前8時から12時、午後1時より3時、但し束脩金1円を納むる者は、来る17年6月迄謝金を要せず。寄宿生食料1ヶ月3円50銭也」という広告が長崎の『鎮西日報』に出されています。すでに、カブリー・セミナリーでは、神学や英語だけでなく日本語、漢学を教えていたのです。カブリー・セミナリーは〈加伯利英和学校〉と表記されるようになりました。ロングがカブリー・セミナリーの学校運営に携わったのは、僅か1年で、その後は、宣教師たちが学校の運営を続けます。

4代目の院長は、I・H・コレルという牧師でした。彼の妻サラは、アメリカ・フィラデルフィアで弁護士をしていた弟のジョン・ロングに長崎で見聞きしたことを書き送りました。その資料をもとにできた小説が『蝶々夫人』です。この小説は、ベラスコやブッチーニによって歌劇となり世界中で愛されるようになりました。

このころ、加伯利英和学校に学んだ一人に宮崎滔天がいます。のちに孫文と出会い中国・辛亥革命に命を賭けることになります。8代目の院長H・B・シュワルツは、沖縄伝道を行ないます。長崎のこの学校で牧師になろうとする青年が、沖縄から集うようになり、沖縄伝道を彼らが担うようになりました。シュワルツは、沖縄学の祖といわれる伊波普猷と極めて親しい関係にありました。

加伯利英和学校は、1889年(明治22)〈鎮西学館〉となり、1906年(明治39)10代院長笹森卯一郎によって〈鎮西学院〉と命名されます。笹森は、アメリカ・デポー大学の哲学博士を持つ洋行帰りの超エリートで、長崎YMCAの創立者でもありました。教え子の一人が、のちに15代院長となり、校訓の『敬天愛人』を打ち出した川崎升です。川崎の同窓で同じ留学生仲間であった田添鉄二は、アメリカ・シカゴ大学から帰国後、長崎『鎮西日報』の主筆に招かれ、のちに議会民主主義を主張する明治期の社会主義者となります。

鎮西学院は、川崎が建てた竹ノ久保校舎で原爆に被災して壊滅します。生き残った17代院長西条寛雄を中心に諫早市へ移転。千葉胤雄18代院長の新構想(千葉プラン)によって労作教育を始めます。アメリカの多くの教会の支援によって現校地へ移転し、生徒たちの手による茶や農産品がアメリカの教会へと送られました。しかし千葉は、学院復興の途上に原爆症によって殉職したのです。20代院長鯨島盛隆は、鎮西学院短期大学を設置、国際教育を目指しました。また、1955年(昭和30)には鎮西学院幼稚園を開園。21代鳥居史郎は、鎮西学院高校に国公立進学クラスを設置。実績を積み上げて進学校と肩を並べるようになりました。22代院長杉原宏一は、諫早市との公私協力方式によって2002年(平成14)4月に短期大学を4年制大学へ昇格させ長崎ウエスレヤン大学を発足させました。

2011年(平成23)鎮西学院は、創立130年を迎えます。新しい闘いが始まろうとしています。